

第1回千歳科学技術大学の公立大学法人化の検討に関する有識者会議
議事録概要

1 日時 平成29年5月18日(木) 午後2時から午後5時まで

2 場所 前半 千歳市役所議会棟2階 大会議室
後半 千歳科学技術大学(視察)

3 出席者 全委員

(委員名簿)

職名等	氏名
【委員長】 前釧路公立大学 学長	小磯 修二
【副委員長】 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 理事	尾谷 賢
【委員】 北海道経済産業局 地域経済部 地域経済課長	小貫 秀治
【委員】 北海道千歳高等学校 校長	増田 雅彦
【委員】 千葉崇晶税務会計事務所 公認会計士・税理士	千葉 崇晶
【委員】 千歳商工会議所 工業振興委員長	三ツ野 仁
【委員】 千歳工業クラブ 副代表幹事	大久保 亘
【委員】 千歳市町内会連合会 副会長	井上 英幸
【委員】 千歳市 副市長	横田 隆一

4 議題

(1) 千歳科学技術大学からの要望内容について

ア はじめに

イ 大学を取り巻く現状

ウ 千歳科学技術大学の概要

エ 大学運営のこれまでの取組

オ 公立大学法人制度

カ 千歳科学技術大学改革構想の概要

(2) 他大学の事例について

(3) 次回以降の検討課題について

5 委員からの意見の要旨

事務局からの説明により、千歳科学技術大学の現状を認識いただいた上で、各委員からの意見を募った結果は以下のとおり。

■若者が大都会に集中している状況を踏まえ、全国で「地方創生」の取り組みが広がっており、その中において「地方大学の役割」は大きくなっている。

■「大学」のように、若者が地域に集うシステムがあることは、地域にとって大きな利点と考える。

- 公立化の検討に当たっては、「魅力ある大学づくり」をどのように行うことができるか、また、大学の持ち味を「地域の発展」にどう結び付けていくかが焦点になると考える。
- 千歳科学技術大学は、「光科学部」という特色のある学部で平成10年に開学し、その後、学部学科の改組を経て現在は「理工学部」となっているが、将来にわたり学生を確保できる大学づくりを考えなければならない。
- 少子化の影響により学生確保が困難になったから公立化し、国から入ってくる交付金を得て運営が成り立つということが「公立化の大義」であってはならない。公立化によって、千歳科学技術大学が「地域」とどう関わっていくかが重要である。
- 開学以来、高い就職率であるが、現在、求人増により「大卒就職内定率」は高まり、それ自体が強みとは言い難い。一方で、新卒学生の「早期離職率」の高止まりが問題となっており、産業界が求める学生と学生が学んできたこととのミスマッチが原因とされている。産業界と大学の緊密な連携により、社会が求める人材を大学のカリキュラムにどう反映するかが大事である。
- 千歳科学技術大学を公立化する場合、大学を地方創生にどう位置づけ、どのように施策に反映させていくのか、千歳市としてのビジョンが必要と考える。
- 「このようなことを学びたい」という学生の需要に対し、それに合った「カリキュラム」を提供できるのが重要であり、学部学科ごとに、どのような特色ある研究に携わることができ、将来的にどんな就職に繋がるのか、学生に見えるシミュレーションを示す必要がある。
- 地方の私立単科大学の経営が厳しいのは、「18歳人口が減っている」ことだけが理由なのか。5年、10年先の千歳科学技術大学を考える上で、規模が小さくても運営が成り立つような戦略を議論する必要がある。
- 千歳科学技術大学の経営状況について、公開されているデータを見る限り、現状の収支はそれほど悪くないと考える。
- 千歳科学技術大学の入学者について、市内在住の高校生が少ない状況であり、公立化を検討する上での1つのポイントと考える。
- 地域に大学を持つことの意味や役割は、在学中に若者が地域に集い、地域で生活していることや、就職して地域を離れても、そこで過ごした卒業生が全国にいることなど、トータルで議論しなければならないと考える。
- 千歳科学技術大学は、公設民営で設置した地域の大学であり、無くする訳にはいかない。今後とも千歳市民で支え、有効に活用していかなければならない。
- 千歳科学技術大学が公立大学となる場合、設置者である千歳市が「中期目標」を立てるなど、千歳市が主導性をもって大学に関わる立場になるので、市がどのようにコミットしていくのかも重要と考える。